

**わた部で
藍染め計画のすくも作り始動!**

2月某日、臼井地区の鮭川和行さんの農業用ハウスに、わた部メンバーが集合し、「すくも」作りに挑戦しました。昨年まで比較的安易な藍の生葉染めを行ってきた「わた部」、今年は初の本藍染めを計画。そのため、まず藍の葉を発酵させた「すくも」を作らなければなりません。お父様の代まで紺屋（藍染業）をしていた鮭川さん。小山のように積まれた発酵中の藍を見た記憶があり、「堆肥のようだった」といいます。乾燥葉に水分を与えてよく混ぜ、衣装ケース二つ分の「すくも」を仕込み終了!



子ども部員もがんばりました!

※「すそみろく」は、平成24年度食と地域の交流促進対策交付金による助成をいただいています。

となること。この夏には深い藍色に出会えるでしょうか!?

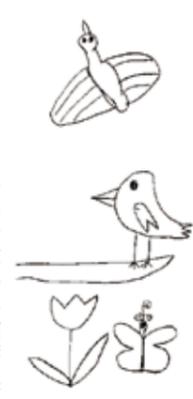
横井久美（六所地区）

神郡を桜の里に

2月20日、神郡地区に桜の苗木70本が贈られて来ました。桜の苗木を育て、全国に配布する活動をしている公益財団法人「日本花の会」から、菊地健一さん（神郡地区）のお力添えによるものです。早咲きでピントの美しい「越の彼岸」30本、八重桜「二葉」40本の桜は、田井小学校東側土手・市営駐車場周り・神郡池の周辺など数箇所に十数本ずつ植える予定です。

何年か後の春、すそみの田井に桜の花が咲き誇り、美しい風景を作ってくれることでしょう。筑波山を背景に桜の里となる光景を描きながら、3月10日午前9時より地区の人々が力を合わせ植え付けました。皆で桜の成長を楽しみながら見守って参りましょう。

飯田一男（神郡区長）



イラスト・ひろせかれん（田井小学校1年）

再注目! 「六所の滝」



水音も涼しげな六所の滝

数年前より筑波山麓では近隣の個人所有の森林整備を行って来ました。この時に森林の河川の上流に名無しの滝がみつかりましたが、滝周辺も竹が倒れ荒れていました。そこで倒れた竹の伐採及び周辺整備を進めました。こうして注目を集めた「六所の滝」。命名は平成22年7月15日。六所大仏より筑波山方向を向くと宮山（125m）が見え、直下の六所皇大神宮跡に「滝まで200m」の看板があります。最近では、六所皇大神宮の参拝に來たついでに滝見学する人や、滝見学を主体に來る人が多くなっています。

これから春、夏と季節が進むにつれて涼が恋しくなりますね。さわやかな水音を聞きながら一時を過ごしてはいかが? また、脚力に自信のある方は、約40分で白滝まで行くこともできます。白滝から白滝神社への登り石階段も整備されました。どうぞ楽しんでください。

松崎 治（六所地区）

**ふるさとに触れる・楽しむ
くなかのじょう山里テーマパークを訪れて**

1月30日晴天。筑波山麓グリーン・ツーリズム推進協議会の視察研修で「なかのじょう山里テーマパーク部会」を訪ねました。

中之条町は群馬県北西部に位置し、人口約1万8千人、美しい自然と四万温泉など11ヶ所もの温泉がある、観光業と農業の町です。都心部からも近く、里山の自然や景観、農業や伝統文化の交流体験を展開。「親戚の家を訪れるような普段着の交流をしています」と話す会長の佐藤仙治さん。その言葉どおり、あたたかなおもてなしの心にあふれた中之条町。筑波山麓もよく似た環境にあります。「自分たちも一緒に楽しみながら」

を大切に地域資源を発掘活用し、先人たちの暮らしを継承する姿勢にとっても共感しました。お昼は山里体験の人気メニュー、「自家製窯で焼くピザ作り」を体験。会員の方々がたくさん駆けつけてくださり、青空の下、棚田を眼下に熱々ピザをほおぼりました。こちら側から熱心にピザ窯のつくり方の質問がありました。筑波山麓でもメニューが増えるかも? 午後は、天皇・皇后両陛下も訪問されたという登坂昭夫さんの「登坂工房」を視察。日本一と評価される「天蚕農家」の登坂さん。織り上がった布やシヨールの美しい色に、思わずため息。こちらからのたくさん質問にも、ひとつひとつ丁寧に説明して下さいました。



あつあつピザが焼きあがりました!

第27号
すそみろく
 筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました
 第27号（平成25年3月5日）
 発行・すそみろく編集委員会
 TEL029-866-1122（田井の里地域づくり愛好会・森田）
 TEL029-863-5151（NPO法人つくば環境フォーラム・田中）



登坂さんから天蚕について説明をいただいています

登坂さんによれば、養蚕農家から天蚕農家への転業は大変な苦労があったそうです。一緒に始めた5軒のうち、今でも続けているのは登坂

神郡塾たより
 母の里山つくばが主催する「神郡塾（青谷洋治塾長）」では、4月14日（日）に開校一周年記念講演会が行われます。ゲストは「第34回少年の主張」全国大会で、「審査委員長賞」を受賞した山野邊のどかささん。美六山荘（つくば市白井六所）にて開催予定です。
 [問] 029-866-1122 森田源美

●編集を終えて……
 交流を通じて、同じような思いを持って各地で活動するたくさんの方がいることに元気づけられました。筑波山麓の里山での暮らしの知恵やすばらしさを伝えるため、これからも楽しく活動します。ご一緒にいかがでしょうか。

すそみサポーター 敬称略

筑波山神社	つくば市筑波
武平ファーム	つくば市小田
出口正義	土浦市
(株) 中野	つくば市花畑
母の里山つくば	

※協賛会員「すそみサポーター」募集中! 103000円

デザイン・小沢陽子（漆所地区）

私たちが応援しています!



クヌギの葉にできた天蚕の繭

手入れされたクヌギ畑

さんのみ。軌道にのるまでの道のりは長く、「今やっと、枯れ木に桜が咲いたようです」という言葉が印象的でした。手入れの行き届いたクヌギ畑にも案内していただき、大変貴重な視察となりました。また家族で訪れたいと話す会員の声もありました。お世話になった皆様、ありがとうございました!

松本真朋（里山建築研究所）
 木村美希（はんでん屋）

天蚕って?
 一般的に「養蚕」というと家の中で蚕を飼う「家蚕（かさん）」の事をいいます。「天蚕（てんさん）」は「ヤマユガ」の幼虫を野外で飼うもの。家蚕は桑で飼育しますが、天蚕はクヌギやコナラの木で育ちます。幼虫や繭はエメラルドグリーンに輝き、繊維のダイヤモンドともいわれ、古くから自生の山繭を集めて繊維が作られてきましたが、その希少性から大変珍重され高価なものだそうです。今、日本で天蚕が行われているのは、本当にわずかです。

宮城県栗原市からのお客さまへ「までなくらし」って、



茅葺き小屋の前で

て、筑波大の安藤邦廣先生に解説していただきました。

宮城県栗原市より「くりはらツーリズムネットワーク」の皆さんが2月23日(土)、24日(日)の両日で視察にこられました。

当日の朝は、栗原は雪模様。道中の事故渋滞の影響などで8時間近くかかって、六所地区に到着。美六山荘で、山麓の野菜をふんだんに使った塩梅さんの「里山弁当」で遅い昼食。田井の大切な宝を探した「お宝発見マップ」や7年にわたって発行してきた「すそみろく」について、つくば環境フォーラムの田中ひとみさんに、建設中の六所の茅葺小屋につい

筑波山麓のしめ縄づくり



稲わらと完成したしめ縄をもつ田野倉さん(左)と鮭川さん(右)

五穀豊穡や家内安全、無病息災を願い、年神様を迎え入れる正月飾り。正月飾りのひとつのしめ縄。最近ではすっかり既製品ですが、本来は農家が縄をなつて作っていました。昔は自家用にどの家でも稲わらを準備して年末につくっていたと話す筑波山麓臼井地区に住む鮭川寛さんと田野倉和良さん。縄をなう手つきは手慣れたもので、しめ縄のない方のひとつ「ごぼうじめ」をあつという間になってくれました。神様に備えるものは左縄といって捻じる向きが決まっているそうです。

て、筑波大の安藤邦廣先生に解説していただきました。

「くりはらツーリズムネットワーク」は、郷土料理や地元の農産物を使った料理のワークショップなど、「食」の活動が多いのですが、その中でも、会員が取り組んだユニークな活動の一つを紹介します。栗原市の旧家に伝わる料理書を紐解くことで始まった「150年前の栗原の食復活プロジェクト」。古書に伝わる料理を試作・復元することで、当時の豊かな食文化や習俗がよみがえりました。そして、農家民宿での試食会、小学校での食育出前授業など、様々な地域おこしにつながっています。皆さんの活動の大事なキーワードは、「まで」。「まで」とは、「ていねいな」という意味。食材を丁寧にごしらえしたり、手間暇かけてつくることがです。食にとどまらず、「『まで』



縁側で座布団作りに励む会長の小野寺さん

材料となる稲わらは、120cm以上必要で背の高い品種を今も大切に保存しているとのこと。夏頃の青く柔らかいうちに刈り取り、冬まで大切に保管したものを使います。気が早いかもしれませんが、田植えの準備がそろそろ始まる時期です。しめ縄づくりを体験イベントとできないか画策中。こうご期待！

安藤 慧(里山建築研究所)

すそみの暮らし再発見！別冊『筑波山ふもと図鑑』発行

筑波山麓の暮らしを子どもと大人がいつしよに語り合い、見つめ直すきっかけにとこの度、絵本『筑波山ふもと図鑑』をつくりました。

かつては「ヤマがきれいで裸足で歩けたっけな」、「夏なると、蚕の世話で忙しかったんだ」、「お嫁入りが決まり、母が綿を作って、嫁入りたくしてくれたんだ」なんていう話を聞いているうちに、ぜひお孫さんの世代に伝えねばというのがきっかけでした。でも、文章だけではつまらないし、写真を探しても出てくるかどうか。ということで、絵本だ！となつたわけです。

絵本は、この「すそみろく」の別冊とし、図鑑と位置づけました。当



竹の器に盛られたえび餅(沼えびや川えびを使う)

な暮らし」というテーマで、様々な農村体験を提供する博覧会も開催されました。

交流会の終盤には、我らが山麓の伝統食「すみつかれ」が登場。用意していただいた六所の森田禮子さんの解説で、生のもと、火を通したものの2種類をいただきました。また、栗原の皆さんは、なんと餅つき機ともち米等を持参され、その場で「えびもち」や「あんこもち」を作つてふるまつて下さいました。珍しい「えびもち」にワツと歓声があがりました。

二日目は、六所に建設中の茅葺き小屋を見学した後、神郡の佐治右衛門邸(櫻井勇さん宅)で、協議会のメンバーの木村寿子、木村美希さん(はんでん屋)による「小座布団作り」を体験。ぽかぽかと日の当たる縁側での綿詰め作業に、皆さん熱心に取り組んで下さいました。暮らしの中にある手仕事を丁寧に伝えようとい

然、載せる絵は、正確さが最低条件。この絵を描いてくれたのが、漆所の小沢陽子さん。ずっと「すそみろく」のデザイン、イラストを担当してきてくれました。全体のデザインは山崎かのこさんで、わた部などの活動でおなじみ。

絵本は、文章を少なくしました。絵をみた子どもが、「これなに？」と疑問を投げかけ、そこから語りかけてもらいたいとの考えからです。

この絵本は、筑波山麓グリーンツーリズム推進協議会の活動として2000部製作しました。今後は、語りのワークショップの教材として活用し、豊かな暮らしを生かした将来像をみんなで共有できればと考えています。グループや仲間と、語りの場を持ちたいという方はお気軽にご連絡ください。問い合わせ・029-867-1083 協議会事務局 野末たく二(絵本企画担当、すそみろく編集委員)



う思いのこもつたワークショップ。山麓版の「までなくらし」を感じていただけただでしょうか？

出来上がった座布団を手に、つくば道を少し歩き、自然生クラブさんの石倉で小休止。代表の柳瀬敬さんが、「ヨーロッパでは、どんな小さな村でも村人が自由に集まり、身近に芸術を楽しめます」と、地域の人気が気軽に訪れアートを楽しむ場の必要性を話して下さいました。

その後、北条街づくり振興会の坂入英幸さん、宮本孝さんの解説で、「北条ふれあい館」、登録文化財「宮本邸」を見学。矢中の杜の井上美菜子さんには、「矢中邸」のガイド。最後にカフェポستنさんが、今回開発して下さったオープンサンドの「里山ランチ」をいただきました。栗原の皆さん、遠路おつかれさまでした！

居島真紀(里山建築研究所)

※すみつかれとは北関東地方に分布する伝統の郷土料理。初午の日を作り、赤飯と共に稲荷神社に供える行事食。ここでは、大根を竹製鬼下ろしで粗くすりおろし、人参等と一緒に酒粕で煮る。大豆や油揚げを入れることもある。「鮭」の頭を入れる地域もある。「しもつかれ」ともいう。

インフォメーション

- 田井ミュージアム春の芸術祭
5月3日(金・祝)〜6日(月・祝)
田井ミュージアム(つくば市神郡54) カフェ・ソレイユ営業、シアター・アトリエでイベント開催。
- 田楽の集い田植え
5月26日(日)10時〜15時、大雨中止
山の神の谷津田(つくば市神郡2336) 参加費・大人900円、学生・障害のある方500円(昼食代込)
紙マルチを使って黒米や赤米の手植え。お昼に創作田楽舞いもあります。
[問] NPO法人自然生クラブ 029-866-2192
http://www17.ocn.ne.jp/~jinenjo/
- 生きものと共存する「すそみの田んぼ」
オーナーと田んぼボランティアを募集。自然の豊かな山際の棚田を、生きもののために残し、子どもたちの体験の場とすることを目指して整備を進めています。この田んぼと一緒に維持してください。この田んぼと整備作業をお手伝いいただけるボランティアさんを募集します。田んぼの案内としくみの説明を4月20日(土)に行います。興味のある方はお問い合わせください。
[問] NPO法人つくば環境フォーラム 029-863-5151
http://tef298.sakura.ne.jp
- 普門寺にお遍路さんが巡拝に
4月3日(水)10時半頃/東福寺桜川八十八ヶ所を巡拝にお遍路さんがやってきました。ぜひ見学にお出かけください。
- 御手洗竹松個展
5月3日(金)〜29日(水) 木曜定休
クラウドナイン(つくば市大角豆945) [問] 029-898-9019